

平成 29 年度奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業

明治地域歴史的建造物調査報告書

北永井・北之庄・南永井・神殿・出屋敷

平成 30 年 3 月

一般社団法人 奈良県建築士会

協力 奈良市教育委員会

目次

序

事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～2

調査地域の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3～4

地域全体調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5～7

各地区調査結果

北永井・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～13

北之庄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～19

南永井・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20～25

神殿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26～31

出屋敷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32～37

報告会の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

序

(一社)奈良県建築士会では平成 22 年以来育成してきた地域文化財建造物専門家(ヘリテージマネージャー)と奈良市教育委員会の協働により、歴史的建造物の掘り起こしのための調査を今年度は明治地域で実施しました。平成 26 年の富雄地域、27 年度の平城地域、28 年度の帯解地域に続く 4 回目の調査となりました。

調査後、結果を報告書にまとめ、地域及び建物の特徴や価値を伝え、地域住民の方々と意見交換も行う報告会を実施し地域を再認識する良い機会となりました。今年は地域以外からの参加者も多く調査に関心を寄せて頂いていることを実感いたしました。

県立図書情報館での活動と調査結果を紹介するパネル展「今・あなたと生きる奈良の宝物」も 2 回目を実施し、調査地域の現状を多くの方に知って頂く上で成果を上げています。

調査を重ねることで、その地域の立地や歴史、周辺の変化が大きく影響して今の地域の姿があることが確認できました。今後、地域の景観を継続させるためにはまずは今ある歴史的建造物へ意識を持つことが大切であり、その意味でもこの調査は意義があると考えます。

先人たちが築き上げた歴史的建物や街並みを「地域文化財」と位置づけ、守り続けていくことの大切さや、改築を行い、新しい建物に生まれ変わったとしても、地域の建築的特徴を残した伝統的な意匠・材料・工法を町という面的なスケールで、後世へと伝承していく意義を調査や報告会で確認しあえたのではないかと思います。

この調査を通して、歴史的文化的建築的背景を理解したヘリテージマネージャーが、専門家としての役割を地域や個人に対して果たす責任は大きいと改めて自覚し、より一層の努力をしないといけないと思います。

最後に、調査にご理解ご協力をいただいた住民のみなさまや、ご支援・ご指導いただいた奈良市文化財課専門職員の方々に感謝の意を表すところです。

一般社団法人 奈良県建築士会
会長 淵上 徳光

報告書刊行に寄せて

平城京以来の歴史を有する奈良市には、数多くの文化財があります。奈良市教育委員会では、それら文化財の保護を図るため、いろいろな文化財調査を行っています。どこに、どんなものが、どれくらいあるかを把握することが、文化財の保護につながります。

しかしながら、市内にはまだまだ未調査の文化財も多く残っています。また、近年文化財として保護する対象も拡大し、建造物の分野では、産業遺産や戦後に建てられた建築物なども文化財として扱われるようになっていきます。

このような動きの中、歴史的建造物への社会的な関心も高まってきています。各地の建築士会を中心に、地域の歴史的建造物の保護を担う人材としてヘリテージマネージャーの育成が進められていることも、そうした関心の高まりを示しているといえるでしょう。奈良県においても、(一社)奈良県建築士会による人材育成のための講習会が平成22年度から開催されています。

こうした状況をふまえ、当市教育委員会では、平成26年度から、奈良県建築士会との協働により、歴史的建造物の分布調査を旧村単位で行っています。この調査では、毎回ヘリテージマネージャーの皆さんに調査員を務めていただいています。4年目となる今年度は明治地域で調査を実施いたしました。その結果、本報告書に記載しましたように、大きな成果をあげることができました。調査を行うにあたってお世話になった皆様に感謝申し上げます。

本書を通じて、多くの皆様に明治地域に残る歴史的建造物を知っていただき、この調査の成果を広く活用していただければと思います。今回の調査が、地域の皆様をはじめとする多くの方々に、それぞれの立場で歴史的建造物の保護に関わっていただくきっかけとなれば幸いです。

奈良市教育委員会 教育長 中室雄俊

事業の概要

〔事業目的〕

明治地域は奈良市南部に位置し、かつては水田が広がる農村であった。また、奈良と桜井を結ぶ上街道、奈良と八木を結ぶ中街道が通っていた。中街道を戦前に拡張したのが現在の県道754号木津横田線(旧国道24号)で、今では沿道に商業施設が建ち並ぶ。住宅地開発も進み地域の風景は大きく変わったが、市街化調整区域には現在も水田が広がるなど、比較的昔からの集落景観を残している。しかし、民家等の分布調査はこれまでほとんど行われておらず、地域特有の歴史的建造物の把握はあまり進んでいない状況であった。

そこで、奈良県建築士会では、平成22年度から4年間で育成した地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）の活動の一環として、奈良市教育委員会と協働し、明治地域の歴史的建造物の調査を行った。地域文化財の把握を促進し、その成果や分布状況を地域住民に報告、発信することで、地域文化財の認識が進み、まちづくりや地域の活性化に繋がる効果を期待し、事業を実施した。

〔期 間〕 平成29年6月～平成30年3月

奈良市教育委員会と協働協定書を交わし、役割及び責任を分担し、調査票や調査内容の検討を重ね、現地の下見を行った後、調査を実施。

〔場 所〕 奈良県奈良市明治地域（北永井、北之庄、南永井、神殿、出屋敷）

〔調査対象〕 近世近代の歴史的建造物（主に住宅を対象とし、社寺建築は除く）

〔調査員〕 地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）、奈良市文化財課職員

〔調査方法〕

- ・昭和36年(1961)と現在の空中写真を比較するなどして調査範囲を絞り込み。
- ・各調査地区の自治会長に協力を依頼し、地域住民へ調査を周知。
- ・調査当日最初に、かつての集落や暮らしの様子について、地域住民からヒアリング。
- ・概ね3名一組で外観からの目視により調査票へ記入。また、外観の写真を撮影。
- ・主屋、附属屋とも、歴史的建造物（築50年以上）、中間的なもの（新しいが伝統的な意匠のもの）、非歴史的建造物に分類し、屋根形式、構造等を記入。加えて、規模、意匠、改造の有無などの特徴も記入。
- ・調査後、調査票を完成させ分布図を作成。

〔情報発信〕 調査終了後、主に地域住民に調査成果を報告する報告会を開催し、地域の特徴を報告。

〔報告書作成〕 調査の内容をまとめた報告書を作成し、今後の地域の資料とする。

* 地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）について *

奈良県内には、奈良時代や鎌倉時代に遡る全国的にも貴重な文化財建造物とともに、近世、近代の歴史的、文化的価値のある建造物も数多く残る。そこで、奈良県建築士会では、地域の歴史的建造物の価値を認識し、その工法や技術等を習得し、これらの建造物を後世に継承できる人材の育成を目指して、文化財専門家育成の講習会を平成22年度から25年度の4年間行った。

講義と演習を含め60時間の講習を行い4年間で103人が修了。地域文化財建造物専門家（ヘリテージマネージャー）として県内各地の歴史的建造物の保全・活用に中心的な役割を担い、まちづくりなどにも加わり地域の活性化に寄与する人材としての活動を進めていく。

[実施内容]

調査地域	調査日	調査敷地数	参加人数
北之庄	平成29年8月26日(土)	78か所	建築士会 7名 奈良市 2名
北永井・神殿	9月 3日(日)	87か所	建築士会 9名 奈良市 2名
北永井の一部 南永井・出屋敷	9月30日(土)	87か所	建築士会 7名 奈良市 2名

[調査の様子]



調査地域の概要

【位置と地理】 明治地域は、かつての平城京の南東部に位置する。東は東市地域、東南は帯解地域に連なり、西は辰市地域、南西は大和郡山の平和地域に接している。東西2.73km、南北1.66km、海拔70m内外で、中央は北永井の西山でやや丘陵地をなしているが他は概ね平坦である。

昔から東側を上街道、西側を中街道が南北に並行して通っている。中街道の一部は昭和15年に拡張され、奈良と橿原を結ぶ国道24号となり主要な産業道路であった。その後、昭和46年(1971)から57年にかけて奈良バイパス（木津～大和郡山市横田）が西側に開通し、旧24号は県道754号木津横田線となった。上街道沿線の出屋敷はかつてはお店が立ち並び賑わっていた。JR桜井線(旧国鉄桜井線・明治31年開通)は京終駅より出屋敷の東部、北永井、南永井の南端を走り帯解駅に至る。

大きな河川はなく、北に岩井川、南に地蔵院川、南永井から北之庄に流れる藤原川の流れを僅かに見るのみである。五徳池（北之庄）、富池(南永井)など各地区にため池が残る。

【歴史】 明治地域は、奈良時代には布の県、曾不乃加美(添上)郡八島郷の内、八島宿禰山主の支配下にあった。長井（北永井・南永井）は平安時代からの荘園名で、東大寺尊勝院領の「長井荘」に由来する。戦国時代には長井氏が長井城を構えた。江戸時代の延宝4年に北永井村、南永井村、出屋敷村に分村。出屋敷は北永井から出て新しくつくられた集落の意味である。

神殿は平安時代の興福寺大乘院領の荘園名「神殿荘」に由来する。神社に供える米をとる（コウデン= 神殿）の意味だとされている。北之庄は戦国時代からの興福寺寺門領大乘院領の荘園名「北荘」「北庄」に由来するが「北」の由来は不明である。江戸時代には地区全体が徳川幕府の直領(天領)であった。

維新後、明治22年(1889)に北永井村、北之庄村、南永井村、神殿村、出屋敷村の5村が合併して明治村となった。村役場は北永井に置かれた。明治31年には市制の執行で奈良市が誕生し、その後、昭和30年3月15日には奈良市との合併が実現した。明治村の村域は「明治地区」と称するようになり、各大字は町名を称することとなった。

合併以降は、全国的な人口増加や住宅地の造成などの状況が明治地域にも及び、昭和36年より南永井に若草団地、つづいて神殿町に春日団地が、さらに昭和48年には南永井新町に団地の造成が行われた。また、旧24号に沿って各企業体の工場、営業所、支店の進出があり、戸数においては約3.3倍、人口においては約2.34倍に増加した(昭和50年時点)。それに伴い下水道などのインフラ整備が進められた。市街地整備も行われ旧24号線沿いは準工業地域、第一種住居地域となっている。今回調査した地域は、旧市街に近い北部や旧24号沿いは市街化区域となっており、北永井、神殿は市街化区域である。一方で、北之庄、南永井、出屋敷は市街化調整区域となっている。

【社寺】 北永井、神殿、出屋敷の三町に各々崇道天皇神社があり、崇道天皇をまつ。北之庄の白山神社は大山祇神を、南永井の春日若宮神社は天忍雲根命をまつ。

北之庄には蓮臺寺、北永井には祐楽寺、南永井に安楽寺がありいずれも浄土宗である。北永井には天理教永井分教会がある。

北之庄の竜腹寺は、現在土壇が残るのみだが、その伝説物語は「奇異雑談集」や「大和名所図会」

にも出ている。むかし、日照りの時、村人が雨乞いの際、ゆるしを得ずに雨を降らせたため大竜王により三つに切られた小竜の頭が今市に、腹が北之庄に、尾が西九条に落ちたので、供養のため竜頭寺、竜腹寺、竜尾寺を建てたというものである。また、今は廃寺となっているが北永井の永福寺の本尊は地蔵菩薩（絵像）で、弘法大師の作と言い伝え、雨乞いには厨子のまま持ち出し、寺で祈祷し背負って町中を歩くと必ず雨が降るといわれている。雨乞いの伝説や行事は大きな川が少なく水源の乏しい大和盆地に多く残る。

[産業] 明治の頃はほとんどが農家で作物は米麦が中心であった。他には菜種、綿花を栽培していて江戸時代とはあまり変わりなかった。その後、養蚕、養鶏を副業に取り入れたこともあるが、昭和の初期頃から奈良市という大消費地に隣接する地の利から野菜の生産に力を入れるようになり、農家経済の重要な一環を担うこととなった。戦後は西瓜、胡瓜、まくわ等の収穫と種子改良を行った。

昭和30年代以降の農機具の機械化、化学肥料の普及は、労力の節減に役立ったが、資材購入費の増加は農業経済を圧迫した。昭和35年頃からは苺のビニールハウス栽培が始められた。特に北之庄で盛んであった。トマト、胡瓜、なす等もビニールハウスでの促成栽培がおこなわれた。

しかし、奈良市との合併以降、住宅地の造成と高度経済成長の国策により特に旧24号沿いに商工業が急激に発展し、農業から他の産業に転業するものが増え、農業に従事する若い世代が減り高齢化が進んで久しい。

（参考資料：『明治郷土史』『奈良市史地理編』）



地域全体調査結果

調査票		敷地前面	
平成29年度 奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業調査票 明治地区		敷地前面	
調査No.	通しNo.	敷地前面	
調査者	調査日	平成 29 年 月 日	
物件名	所在地	敷地前面	
<input type="checkbox"/> 門 → 長屋門・和風・洋風・その他 () → 附属屋の項へ <input type="checkbox"/> 塀 → 土塀・板塀・真壁塀・CB塀(和風)・生垣・その他 ()		敷地前面	
<input type="checkbox"/> 住宅 → 町家・農家・和風・洋風・その他 () <input type="checkbox"/> 住宅以外 → 和風・洋風・その他 用途 ()		敷地前面	
主たる建物	昭和30年代以前(一歴史的建造物)	昭和40年代以後	見えない
	<input type="checkbox"/> 草葺 <input type="checkbox"/> 煙出 <input type="checkbox"/> 虫籠窓 <input type="checkbox"/> 本二階 <input type="checkbox"/> 軒下 <input type="checkbox"/> 軒下 <input type="checkbox"/> 軒下	<input type="checkbox"/> 伝統的な意匠のもの等 <input type="checkbox"/> その他の非歴史的建造物 <small>「主たる建物」については「調査票」の下の記入欄を参照</small>	
	<input type="checkbox"/> 江戸 <input type="checkbox"/> 明治 <input type="checkbox"/> 大正 <input type="checkbox"/> 戦前 <input type="checkbox"/> 戦後	<input type="checkbox"/> 伝統的な意匠のもの等 <input type="checkbox"/> その他の非歴史的建造物	
	<input type="checkbox"/> 草葺 <input type="checkbox"/> 煙出 <input type="checkbox"/> 虫籠窓 <input type="checkbox"/> 本二階 <input type="checkbox"/> 軒下 <input type="checkbox"/> 軒下 <input type="checkbox"/> 軒下	<input type="checkbox"/> 伝統的な意匠のもの等 <input type="checkbox"/> その他の非歴史的建造物	
構造 <input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> その他 () 階数 <input type="checkbox"/> 平屋 <input type="checkbox"/> つし二階 <input type="checkbox"/> 本二階 <input type="checkbox"/> その他 () 屋根 <input type="checkbox"/> 平入 <input type="checkbox"/> 切妻 <input type="checkbox"/> 入母屋 <input type="checkbox"/> 寄棟 <input type="checkbox"/> 片側切妻 <input type="checkbox"/> 片側入母屋 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 妻入 (大和棟・大和棟以外の落棟・) <input type="checkbox"/> 草葺 <input type="checkbox"/> 草葺(金銅板葺・スレート葺) <input type="checkbox"/> 瓦葺 <input type="checkbox"/> 金属板葺 <input type="checkbox"/> その他 () 張出玄関 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり → 切妻妻入・入母屋妻入・その他 () その他 <input type="checkbox"/> 袖印建 <input type="checkbox"/> 平格子 <input type="checkbox"/> 出格子 <input type="checkbox"/> 太格子 <input type="checkbox"/> その他 ()		凡例 R 歴史的建造物 C 中間的なもの Z その他 () K 切妻 I 入母屋 Ki 片側切妻片側入母屋 Y 寄棟 Z その他 () W 木造 Z その他 () (例1) 門 + ナ、RKW、八瓦金具あり……(適宜特徴を記入) (例2) ソ1(塀所か)、OZ(片流)W、……	
表門(門) 離れ(ハ) 納屋(ナ) 蔵(ク) その他(ソ) <small>塀所高出 軒下高出 草葺、等</small>		建物位置記入例 1棟と判断されるときは 添削していても、2棟 として扱うのが普通 などとは、行けない	
備考 規模・デザイン・材料・改造・履歴補入(石垣・植栽等)、その他適宜記入			

敷地前面

門、塀、石垣等の有無を確認。

主たる建物(主屋)

歴史的建造物か中間的なものか非歴史的建造物かを判別し、歴史的建造物と中間的なものは、屋根形状、葺材、階数、構造などを調査。

附属屋

歴史的建造物か中間的なものか非歴史的建造物かを判別し、屋根形状と構造を記録。

歴史的建造物：建築から概ね50年以上を経過している建物（昭和30年代以前の建物）
 中間的なもの：建築年代は新しいが、伝統的な意匠の建物
 非歴史的建造物：上記以外の新しい建物

概要

主たる建物は、歴史的建造物77棟、中間的なもの82棟が確認できた。昭和30～40年代に建て替えられたものも多く見られたが、伝統的な意匠を継承する中間的な建物が多数あることがわかった。上街道沿いの出屋敷地区に通りに面した町家形式の主屋が多く、細格子、太格子、出格子などの町家の意匠が確認できた。その他の地区は附属屋を多く持つ囲造りの形式をとり、敷地・住宅とも大きく、大和平野の農家住宅の特徴を示す。

	北永井	北之庄	南永井	神殿	出屋敷	計	
調査敷地	51	78	53	45	25	252	
主たる建物	歴史的建造物	15	25	14	12	11	77
	中間的なもの	17	27	18	16	4	82
	非歴史的建造物	17	18	14	15	9	73
	合計	49	70	46	43	24	232
主たる建物がない敷地	2	8	7	2	1	20	

附属屋は、伝統的な意匠や形式の建物が多数残り、歴史ある町並みを伝える上で大きな役割を担っている。その中でも納屋で歴史的建造物が多くみられた。長屋門も、時代による形式の差異はあるが伝統的な意匠を継承し、地域の景観に大きく寄与している。蔵は乾蔵がほとんどで蔵前に部屋が附属するものも確認できた。

	北永井	北之庄	南永井	神殿	出屋敷	計	
附属屋	長屋門	13	18	14	2	61	
	その他の門	13	30	13	8	69	
	離れ	34	67	39	32	15	187
	納屋・その他	38	84	60	52	23	257
	土蔵	21	28	29	14	8	100

* 附属屋の棟数は、歴史的建造物、中間的なもの、非歴史的建造物の合計

【主たる建物について】

主たる建物のうち歴史的建造物と中間的なものについて、屋根形式別、階数別の棟数を下に示した。屋根形式別では、草葺（金属板葺となっているものを含む）の棟数と、そのうちの大和棟の棟数も示した。歴史的建造物のほとんどが切妻造で、中間的なものにおいても切妻造が最も多かった。

歴史的建造物77棟のうち、草葺の大和棟が7棟（北永井1棟、北之庄4棟、南永井2棟）確認できた。また、草葺だが大和棟でないものも南永井で1棟確認できた。その他、入母屋造のものが4棟、片側入母屋片側切妻造のものが4棟あった。

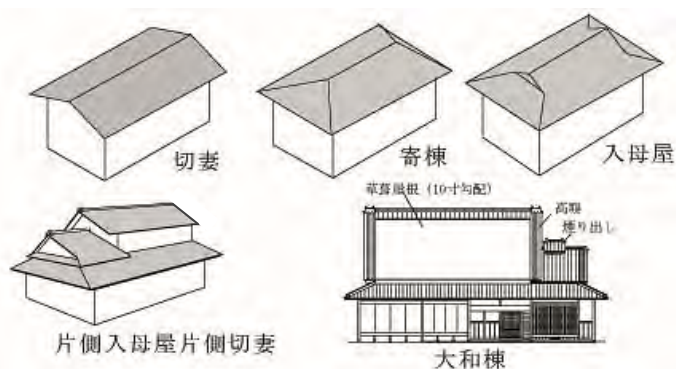
屋根形式	歴史的建造物77棟						中間的なもの82棟					
	北永井	北之庄	南永井	神殿	出屋敷	計	北永井	北之庄	南永井	神殿	出屋敷	計
切妻造 （草葺）うち大和棟	14 (1)1	23 (3)3	13 (3)2	10	9	69 (7)6	10	9	12	7	4	42
入母屋造 （草葺）	1	1	-	1	1	4	3	12	1	4	-	20
片側入母屋片側切妻造 （草葺）うち大和棟	-	1 (1)1	1	1	1	4 (1)1	4	6	5	5	-	20

階数別では、歴史的建造物では平屋・つし二階が多く確認できたが、中間的なものはつし二階が少なくなり、ほとんどが本二階であった。

階数	歴史的建造物77棟						中間的なもの82棟					
	北永井	北之庄	南永井	神殿	出屋敷	計	北永井	北之庄	南永井	神殿	出屋敷	計
平屋	5	8	8	1	2	24	-	-	-	-	1	1
つし二階	7	14	5	7	6	39	2	-	2	1	-	5
本二階	3	3	1	4	3	14	15	27	16	15	3	76

玄関部を張り出して屋根をかけるもの（張出玄関）が見られたため、屋根形式別の棟数を下表にまとめた。張出玄関は、中間的なものを中心にみられたが、街道に面して町家形式の建物が建つ出屋敷にはみられなかった。

張出玄関屋根形式	歴史的建造物16棟						中間的なもの48棟					
	北永井	北之庄	南永井	神殿	出屋敷	計	北永井	北之庄	南永井	神殿	出屋敷	計
入母屋造 （うち張り出さないもの）	1	5	-	3	1	10	9	17	10 (1)	8	-	44 (1)
切妻造、片流れ	1	1	1	2	1	6	1	2	-	1	-	4

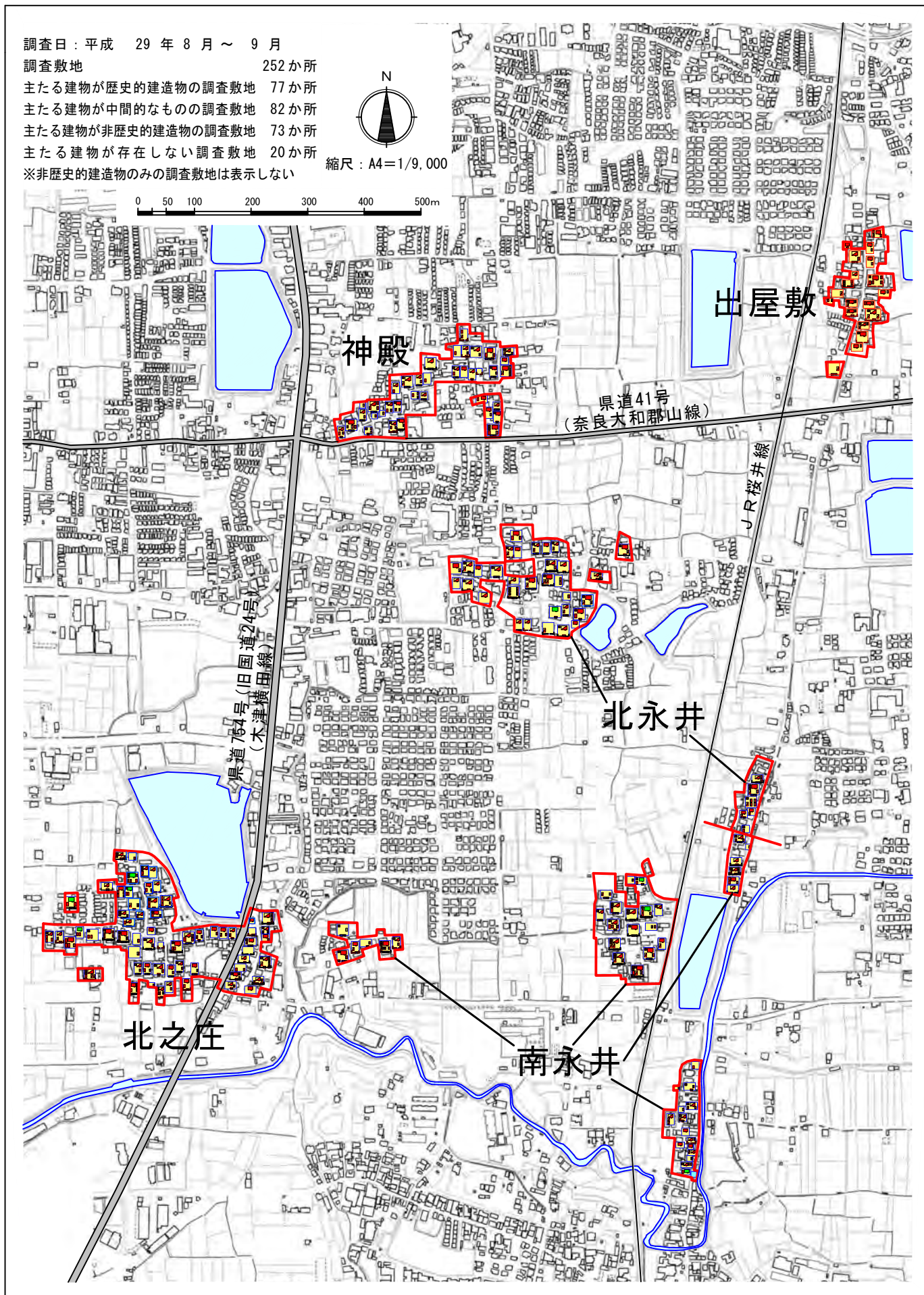


屋根形式の例



張出玄関の例

調査地分布図 (明治地域全体)



北永井 1－地区の特徴・考察

平成29年 9月 3日

調査日 上街道沿いは30日



[景観・敷地]

- ・北永井は県道41号の南に位置し、旧国道24号と国道169号に挟まれた地区である。集落は地区の中央西寄りに位置するほか、地区南端の上街道沿い西側にも民家が建ち並ぶ。
- ・中心集落のあたりでやや丘陵地をなし、北側が高台となり、南側がやや低い地域となる。
- ・明治地域内に3か所ある崇道天皇神社の一つが地区のほぼ中央集落東端となる位置にあり、崇道天皇を祀る。境内に生い茂る木々は鎮守の森として存在感を放ち、地域の景観を豊かにしている。神社北側には浄土宗の祐楽寺がある。また天理教永井分教会もある。
- ・東西に棟を持つ南向きの主屋を敷地の中央に配置し、長屋門を南側（上街道沿いのものは東側）、敷地を囲うように離れ、納屋、乾蔵等を配置する囲造りの農家型住宅を基本としている。

[主屋]

- ・調査棟数51棟中、歴史的建造物15棟（うち3棟は住宅以外）、中間的なもの17棟を確認できた。
- ・歴史的建造物のうちの1棟は大和棟で、草葺部分は金属板葺とされている。
- ・それ以外の歴史的建造物14棟は棧瓦葺で、天理教教会1棟（入母屋造・妻入）を除いて、切妻造・平入であった。住宅以外の3棟と町家形式の1棟は平屋であった。平屋以外の10棟は農家住宅で、つし二階が7棟、本二階が3棟あり、すべて落棟を有し、4棟に煙出しが残っていた。つし二階7棟のうち1棟で虫籠窓がみられた。本二階3棟のうち1棟で出桁を用いていた。
- ・中間的なもの17棟はすべて棧瓦葺で、つし二階が2棟、本二階が15棟であった。1棟を除き平入で、そのうち9棟で入母屋造妻入の張出玄関が確認できた。出桁のある10棟はすべて本二階で、うち1棟には袖卯建も確認でき、中間的なものが歴史的なつくりを継承している。

[附属屋]

- ・調査棟数119棟中、歴史的建造物34棟（蔵9棟、離れ3棟、納屋12棟、門・長屋門8棟、その他2棟）、中間的なもの47棟を確認できた。明治期のドテ屋も1棟確認できた。
- ・調査敷地51か所中、12か所に長屋門、17か所に蔵（1棟は非歴史的建造物）があり、8か所は両方あった。蔵が2棟あるところが2か所、3棟あるところが1か所あり、そのうち2か所は乾蔵を2棟並べて建てていた。主屋、長屋門、蔵がいずれも歴史的建造物であるものも1か所あった。

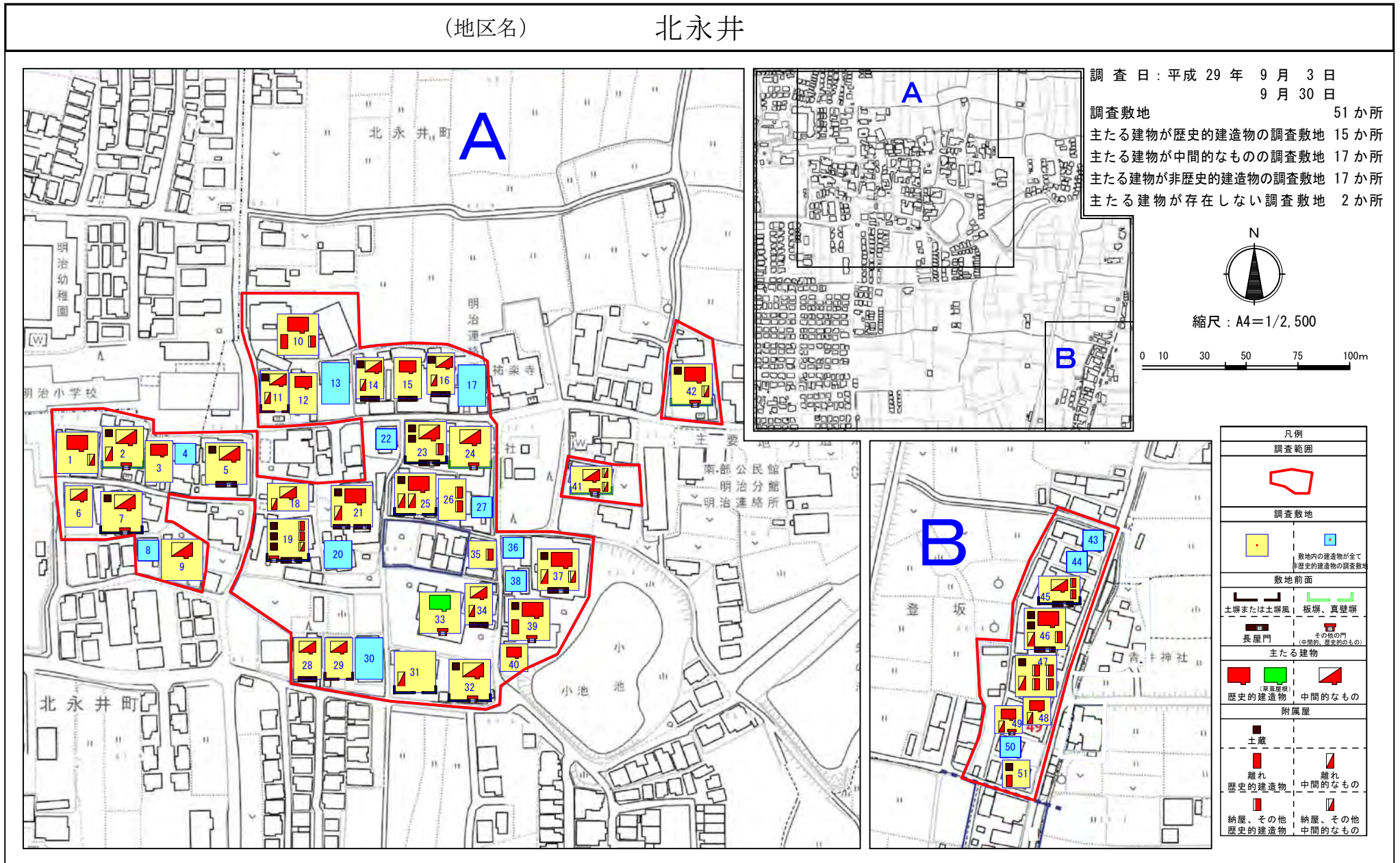
[その他の特徴・感想]

- ・市街化区域であるが、新しい建物も伝統的な意匠をもつものが多く、緩やかに曲がった細い路地とともに古い町並みをよく残す。南側の傾斜地では、石垣と漆喰塗の土塀が美しい景観を作る。

分布図

(地区名)

北永井



北永井 2－地域の風景 町並み



北 永 井 3-建物写真①



主屋 切妻造（大和棟）
 明治頃の建築とみられる。草葺部分は金属板で覆われている。落棟部分は棧瓦葺。



主屋 切妻造（落棟）
 約100年前の大正期の建築を近年改装。元の屋根にはムクリが付いていた。



主屋 切妻造（落棟）
 街道沿いに建つ。戦前の建築か。つし二階建てで下手を落棟とし煙出しを持つ。



主屋 切妻造（落棟）張出玄関付
 戦後の建築。本二階建てで下手を落棟とする。家紋付き袖卯建があり、屋根にはムクリがつく。



主屋 切妻造（落棟）
 上街道沿いに建つ戦後の建築。つし二階建てで下手を落棟とするが煙出しはない。長屋門、巽蔵、乾蔵を持つ。



天理教会 入母屋造 妻入
 戦前のものとみられる。地域では珍しい入母屋造、妻入の建築。基礎は石場建て。

備考



中間的な門には、長屋門でない立派な門も比較的多くあった。

北永井 3-建物写真②



長屋門

門の両側に離れと蔵。木部には赤色塗装（ベンガラか）が施されているのが珍しい。明治頃の建物か？



長屋門

道路に東面し、片側入母屋片側切妻造で門の両側に納屋と離れ。腰窓には出格子が施されている。



長屋門

道路に南面し、門の両側は納屋と離れ。納屋は二階建。



長屋門

道路に南面し、門の両側は離れと車庫（元は納屋か）。離れは二階建か。



長屋門

道路に南面し、門の両側に納屋と異蔵。屋根はそれぞれ別棟とする。蔵一階は車庫に改修されている。



長屋門

道路に北面して建つ、入母屋造、黒漆喰塗の重厚な長屋門。両脇の部屋には出格子窓や与力窓を設ける。

備考



その他
 主屋がなく、建物の性格がよくわからない。2階建てで、納屋と離れを兼ねた建物か。屋根が金属板葺に改修されている。



納屋
 庭に祠をまつる。お稲荷さんか。

北永井 3-建物写真③

	
<p>長屋門・納屋・蔵 道路に北面して建つ。長屋門、納屋（車庫）、乾蔵と並べる。</p>	<p>長屋門・蔵 中間的な建物で、南側・東側に長屋門を2ヵ所設けており、異蔵と各々が接続する。南側の長屋門が正門。</p>
	
<p>蔵（右と同一敷地） 長屋門と接続している異蔵。外壁仕上は洗出しになっており、漆喰とは異なる趣向が見られる。</p>	<p>蔵（左と同一敷地） 高さや棟の向きが異なる2棟の乾蔵が建つ。離れとも接続する（蔵座敷か）。</p>
	
<p>蔵 高さや棟の向きが異なる2棟の乾蔵が道路に沿って並んで建つ。</p>	<p>ドテ屋 明治期のものと伝える。昭和48年に木部を改修したといい、その姿を現在に残している。</p>
<p>備考</p>  <p>自然な形の石を積んだ石垣(左)と、亀甲風に石を加工して積んだ石垣(右)。好対照な表情をみせる。</p>	

北之庄 1－地区の特徴・考察

調査日 平成29年 8月26日



地区の東部を縦断する旧国道24号



地区内に残る大和棟

[景観・敷地]

- ・ 集落の東部に旧国道24号が縦断しており、その東側の集落内を旧中街道が通る。
- ・ 地区北東部には、聖徳太子が一夜で自ら掘ったとされる五徳池（永井池）がある。平城京東南隅にあり、平安初期の日本霊異記にみえる「越田ノ池」にあたる古い歴史をもつ池である。
- ・ 旧24号沿道のロードサイド店舗や宅地化などによる市街化は当地区まで進んでいるが、当地区以南は開発が抑制されている。概ね田園が広がり、全体としては農家住宅が集落を形成している。
- ・ 集落内の道路は緩やかにカーブし、景観に変化と趣きを与えて歴史的な空間を豊かにしている。
- ・ 主屋をはじめとする大半の建物が、敷地に接する道路の方向を問わず、概ね東西方向に棟を持つ。
- ・ 調査範囲全体が市街化調整区域であるため、大規模な開発行為は見られないが、“大和北半国の田地持ち”と言われた豪農・山中太兵衛の屋敷跡は、宅地分譲によって細分化されている。

[主屋]

- ・ 調査棟数78棟中、歴史的建造物が25棟（内2棟は住宅以外）、中間的なものが27棟確認できた。
- ・ 住宅以外の歴史的建造物として、小規模な平屋建の倉庫と、大規模な二階建倉庫が確認できた。いずれも切妻造、棧瓦葺、平入で、後者は正面庇付であった。
- ・ 歴史的建造物である住宅のうち、4棟は大和棟で、いずれも草葺部分を被覆する形で金属板葺としていた。それ以外の21棟は棧瓦葺で、入母屋造1棟を除き切妻造であり、17棟に落棟があった。平屋が8棟、つし二階が14棟、本二階が3棟で、すべて平入であった。煙出しは9棟で確認でき、いずれも落棟を有する建物であった（内1棟は大和棟）。
- ・ 中間的な主屋には、入母屋造の屋根や入母屋造妻入の張出玄関をもつものが多い。

[附属屋]

- ・ 調査棟数227棟中、歴史的建造物が91棟（内訳：門・長屋門…18棟、離れ…34棟、納屋…16棟、蔵…16棟、その他…7棟）、中間的なものが82棟確認できた。
- ・ 蔵は1棟の場合乾蔵か異蔵であった。2棟あるものも6か所あり、いずれも乾蔵及異蔵であった。
- ・ 主屋が歴史的建造物でなくても、附属屋に歴史的建造物がある住宅が16か所確認できた。

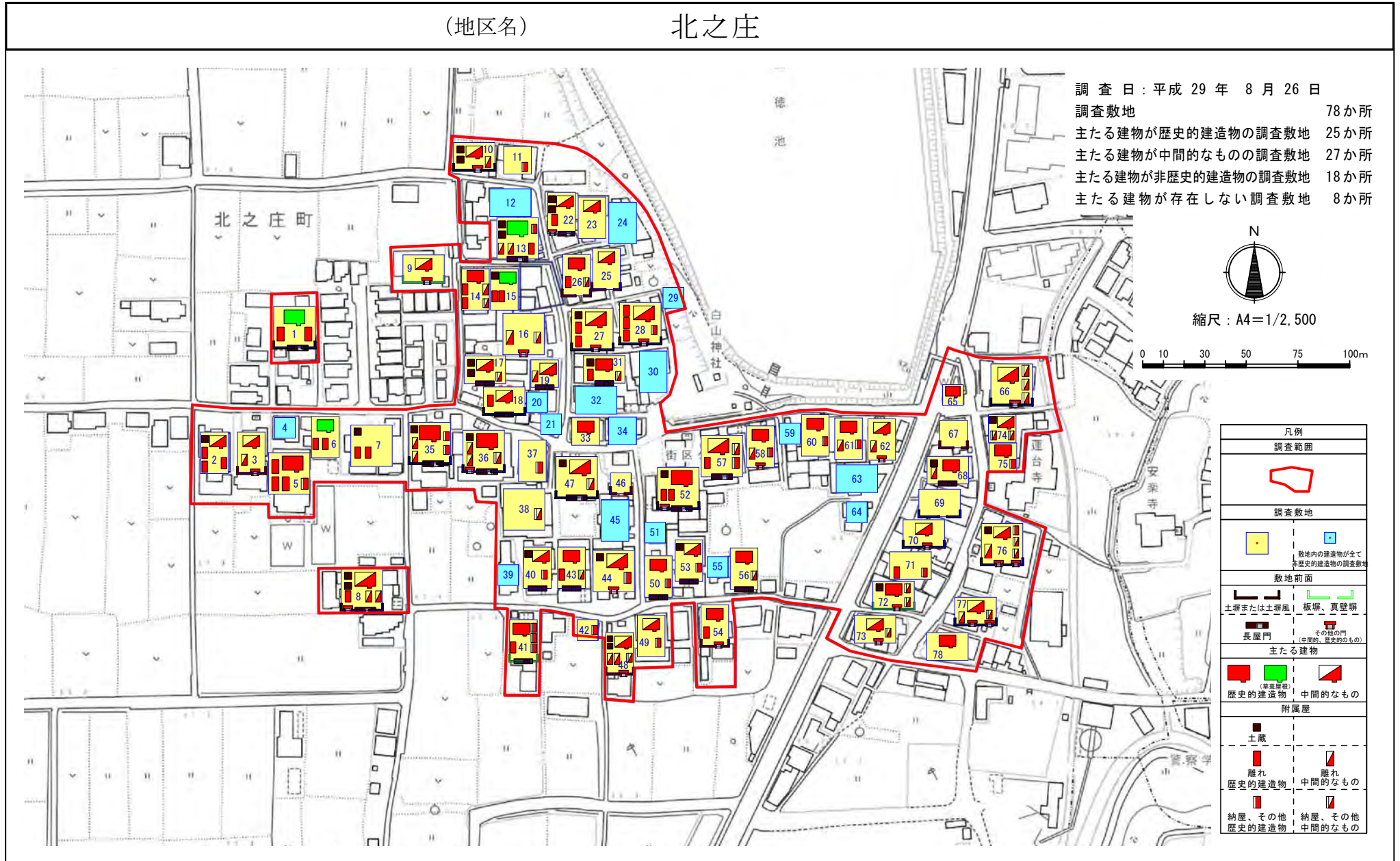
[その他の特徴・感想]

- ・ 白山神社境内北側の土壇にはかつて竜腹寺という寺があり、その本尊であった木造阿弥陀如来立像は奈良市指定文化財に指定されている。

分布図

(地区名)

北之庄



北之庄 2－地域の風景 町並み



北之庄 3-建物写真①



主屋 片側切妻片側入母屋造（大和棟）
 明治頃の建築とみられる。
 草葺の屋根は、昭和35年に金属板葺にしたという。



主屋 切妻造（大和棟）
 通りに北面して建つ。明治頃の建築か。落棟に煙出しが残る。草葺の屋根は瓦葺型の金属板葺となっている。



主屋 切妻造（大和棟）
 明治頃の建築とみられる。
 草葺の屋根は金属板葺となっている。



主屋 切妻造（大和棟）
 通りに北面して建つ。明治頃の建築とみられる。
 草葺の屋根は金属板葺となっている。



主屋 切妻造（落棟）
 戦前の建築とみられる。つし二階建。落棟に煙出しが残る。軒を出桁で支持し、つしの窓に平格子。



附属屋（長屋門・塀重門・蔵）
 長屋門を入ると、玄関前と座敷前庭を区画する腰板張漆喰塗の塀と塀重門がある。座敷前庭の上手に乾蔵。

備考

北之庄 3-建物写真②



主屋 切妻造（落棟）

戦前の建築か。旧中街道に東面して棟門、腰板張り真壁漆喰塗りの塀、塀重門や庭木も整い美しい景観をみせる。

附属屋（塀・門・蔵）

敷地の三方を囲う道に塀・門・離れ・納屋・置屋根の乾蔵が面する。



主屋 切妻造（落棟）

戦前の建築か。つし二階建。つしに虫籠窓。

主屋 切妻造（落棟）

昭和20年代頃の建築か。旧中街道に西面し、落棟に煙出しが残るやや建ちの低い本二階建。軒は出桁で支持。



主屋 切妻造（落棟）

昭和20～30年頃の建築という。つし二階建。落棟に煙出しが残る。切妻で妻入の張出玄関は後設とみられる。

主屋 切妻造（落棟）

昭和30年代末頃の建築か。つし二階建。入母屋で妻入の張出玄関。

備考

北之庄 3-建物写真③



主屋 切妻造（落棟）

戦後の建築とみられる。本二階建。入母屋で妻入の張出玄関。長屋門、蔵、納屋、離れが附属する。



主屋 切妻造（落棟）

昭和2年の建築という。区内で最も古く、通り庭が残っているとのこと。落棟には煙出しが残る。



長屋門（納屋・門・巽蔵）

巽蔵を土蔵造とせず、長屋門と一体に造っている。窓は、蔵に見られるような形状をしている。



ドテ屋

土壁で造られた小屋。東側の壁は土壁になっているが、西側の壁は柱が建ち、真壁になっている。



大規模倉庫

大規模な二階建土蔵。戦後の建築か。下屋の柱間装置は後設。かつては農協が米などを保管していたという。



屋根や塀の装飾など

普通正面中央に置く鍾馗瓦を建物端に後ろ向きに置く例あり。年代は新しいが塀に縁起物の装飾がみられた。

備考

巽蔵を土蔵造とせず、長屋門と一体に造る例は、他にも確認できた。いずれも窓は蔵に見られるような形状をしていた。



南永井 1－地区の特徴・考察

調査日 平成29年 9月30日



田園風景



地藏院川と上街道風景

[景観・敷地]

- ・田園風景の広がる明治地域南東部に位置。東は上街道を境に東市地域と、南は地藏院川を境に帯解地域と接する。集落は、春日若宮神社がある中央の集落、北之庄に隣接する西側の集落、上街道沿いの南北2つの集落の、4つの集落からなる。
- ・中央の集落は20軒ほどの農家の集落で、囲造りの屋敷構えが多かったが、ミニ開発もみられた。
- ・西側の集落は安楽寺東側の10軒ほどの農家の小集落で、ここでも囲造りとミニ開発がみられた。
- ・上街道に沿い北側の集落は囲造りの農家の集落であったが、帯解から続く南側の集落は通りに面して主屋を建てる町家風の屋敷構えで、ここでは建て替え・改修が比較的多くみられた。

[主屋]

- ・調査敷地53か所で46棟の主屋を調査し、歴史的建造物14棟、中間的なもの18棟を確認できた。
- ・歴史的建造物14棟のうち、長屋、兼用長屋、住宅以外が各1棟あり、いずれも平屋であった。それ以外の住宅の主屋11棟は、平屋5棟、つし二階5棟、本二階1棟であった。平屋には、中央の集落で大和棟2棟、上街道沿い南側で切妻造草葺1棟がみられた。張出玄関は1棟確認できた。
- ・ほとんどが切妻造であった。また、ほとんどが平入であった。妻入は、上街道沿い北側の住宅で1棟、上街道沿い南側の住宅以外（建具店）でも1棟みられた。

[附属屋]

- ・囲造りが多く、敷地を囲う多くの附属屋があり、長屋門14棟、離れ39棟、納屋その他60棟、土蔵29棟を確認した。長屋門14棟のうち8棟が歴史的建造物であった。塀重門は2棟確認した。
- ・中央の集落では、中央の南北通りから東西に出た枝道に面して長屋門を構えるものが多かった。

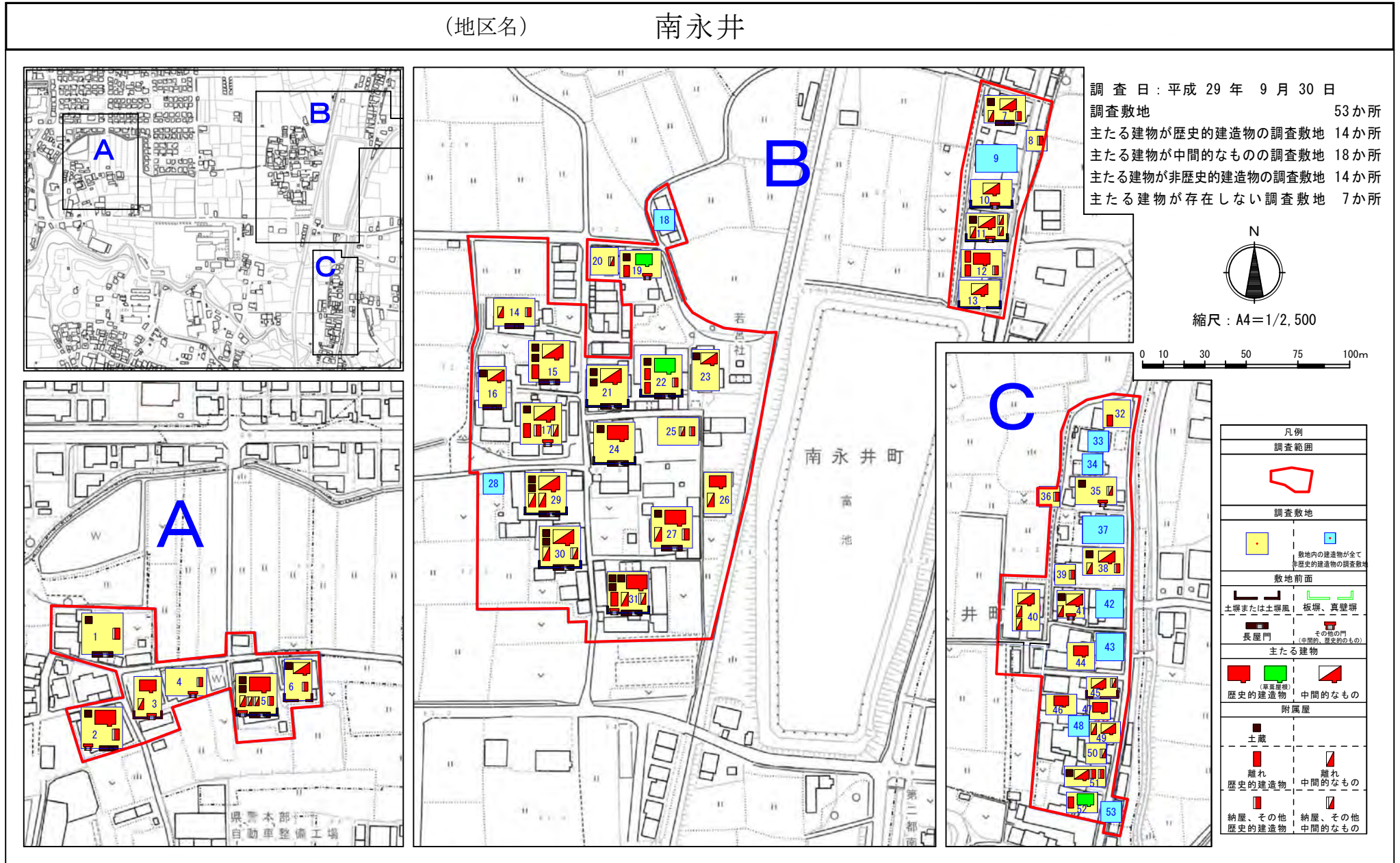
[その他の特徴・感想]

- ・中街道、上街道に囲まれた田園地帯の農家集落群で、大和の美しい集落風景が広がる中、上街道沿いには街村状の町並みが形成されるなど、長い歴史の変遷を感じさせてくれる風景である。
- ・また、奈良盆地を縁取る山並みを背景とする南永井の田園風景は、古来変わらぬ姿であるようにも感じられる。集落と、田園地帯と、山並みによって、地域の大きな景観がつけられている。

分布図

(地区名)

南永井



南永井 2－地域の風景 町並み



南永井 3-建物写真①



主屋 切妻造（落棟）
 つし二階の農家。囲造りの屋敷構え。煙出しあり。
 瓦屋根が美しい。



長屋門・主屋つし二階ガラス窓
 長屋門は北面に構える。出桁は一段。主屋のガラス窓
 は縦棧のみのシンプルな意匠で、外側に鉄格子が入る。



長屋門 片側切妻片側入母屋造
 南面に構える。腰壁の一部を竹張りとしている。出桁
 が二段である。



主屋 切妻造
 つし二階の農家。つしの窓はガラス窓。北面に棟門を
 構える。



囲造りの屋敷構え
 主屋、長屋門、離れ、納屋、巽蔵、乾蔵等からなる囲
 造り。主屋一階に太格子、つし二階に虫籠窓、袖卯建。



張出玄関 妻入
 昭和36年以降に建てられた、つし二階の農家。門は鉄
 扉を北面に構える。

備考

上の写真はすべて西側の集落のもの。安楽寺から東に延びる道沿いに農家住宅がある。各戸の門は全てその道に面している。

南永井 3-建物写真②



主屋 切妻造（大和棟）

草葺の上に金属板が葺かれている。門は北面に構える。



長屋門 片側切妻片側入母屋造

門は南面に構える。



主屋 切妻造（大和棟）

明治頃とみられる農家。煙出しが残る。草葺屋根は鉄板で覆う。上手にも落棟あり。南面に長屋門を構える。



主屋 片側切妻片側入母屋造

本二階の農家。妻入の張出玄関がある。北面に棟門を構える。



長屋門 切妻造

主屋は本二階の切妻造（落棟）。東面に長屋門を構える。



ドテ屋

厚い土壁で作られた小屋で、土壁にはレンガが塗り込められている。堆肥等を保管する場所であったらしい。

備考

上の写真はすべて中央の集落のもの。田園の中の集落で、東端に春日若宮神社が祀られている。ミニ開発の手が入ったところ以外は囲造りの屋敷構えを持つ大和平野の伝統的な農家集落の姿をよく留めている。

南永井 3-建物写真③



主屋 切妻造

上街道沿い北側集落では街道に面して門を構えるのが通例であるが、この家では主屋妻面に戸口を設ける。



離れ・祠

西側の庭に、切妻屋根の離れと祠がある。祠の鬼瓦には「卍」の紋があり、社ではなく仏様を祭るものか。



蔵・納屋

上街道に面する敷地の背面側（西側）の水路沿いに並ぶ蔵や納屋。水路から西側には田園が広がる。



店舗 切妻造

上街道に東面する妻入の建具店。瓦葺の上に金属板が葺かれている。



倉庫・長屋

平屋の倉庫と5軒長屋からなる細長い建物。ひとつづきの家屋である。



主屋 切妻造

上街道に面し東面に戸口を持つ明治頃とみられる平入の家屋である。草葺の上に金属板が葺かれている。

備考

上の写真はすべて上街道沿いの集落のもの。北側の集落は、中央や西側の集落と同様の囲造りの農家であるが、南側の集落は、通りに面して主屋を建てる町家風の屋敷構えであり、帯解から町並みが延びてきたものではないかと思われる。主要道路沿いの集落として、それぞれ独自の推移があったと感じられる。

神 殿 1－地区の特徴・考察

調査日 平成29年 9月 3日



集落周辺に残存する田園



路地沿いの風景

[景観・敷地]

- ・ 明治地域の北部に位置し、西側を通る旧国道24号は交通量が多い。
- ・ 中世には興福寺で権勢をふるった大乘院（奈良ホテル南側に庭園が残る）の所領であったようだ。
- ・ 戦前までは水田地帯に囲まれた純農村で、北方に奈良旧市街が望めたというが、現在では旧市街から神殿まで連続した市街地が形成されている。
- ・ 戦後の高度成長期以降、住宅地の造成に伴う人口流入、農業から他産業への就業者の移行、生活様式の変化に伴う住宅の建て替え等が進み、町並みや周囲の景観は大きく変わった。
- ・ しかしながら、旧集落に残る歴史的な建造物、路地沿いの風景、周囲に残る水田などが伝統的な景観をよく伝え、神殿の町の成り立ちを教えてくれる。

[主屋]

- ・ 調査棟数45棟中、歴史的建造物が12棟、中間的な建造物が16棟確認できた。
- ・ 中間的なものも含めてほとんどが平入の農家住宅であり、屋根形態は切妻17棟（歴史的建造物10棟、中間的なもの7棟）、入母屋5棟（歴史的建造物1棟、中間的なもの4棟）、片側切妻片側入母屋6棟（歴史的建造物1棟、中間的なもの5棟）、全て棧瓦葺、ほとんどが落棟であった。煙出しのある家も5棟（すべて歴史的建造物）あった。
- ・ 歴史的建造物のうち、つし二階が7棟、本二階が4棟、平屋が1棟で、中間的なもののうちつし二階は1棟でそれ以外は本二階であった。
- ・ 外壁、屋根等を適度に改修して長寿命化や住み心地の改善を図り、住み継いでいる家も見られる。

[附属屋]

- ・ 調査棟数120棟中、歴史的建造物が47棟（長屋門9棟、離れ11棟、納屋12棟、蔵6棟、その他9棟）、中間的なものが34棟確認できた。
- ・ 調査敷地45か所中、附属屋が歴史的建造物であった敷地は29か所あった。そのうち主屋も歴史的建造物であったのは9か所のみで、附属屋が伝統的な町並みの面影を伝えているともいえる。
- ・ 複数の附属屋が歴史的建造物であった敷地では、11か所中4か所の主屋が歴史的建造物であった。

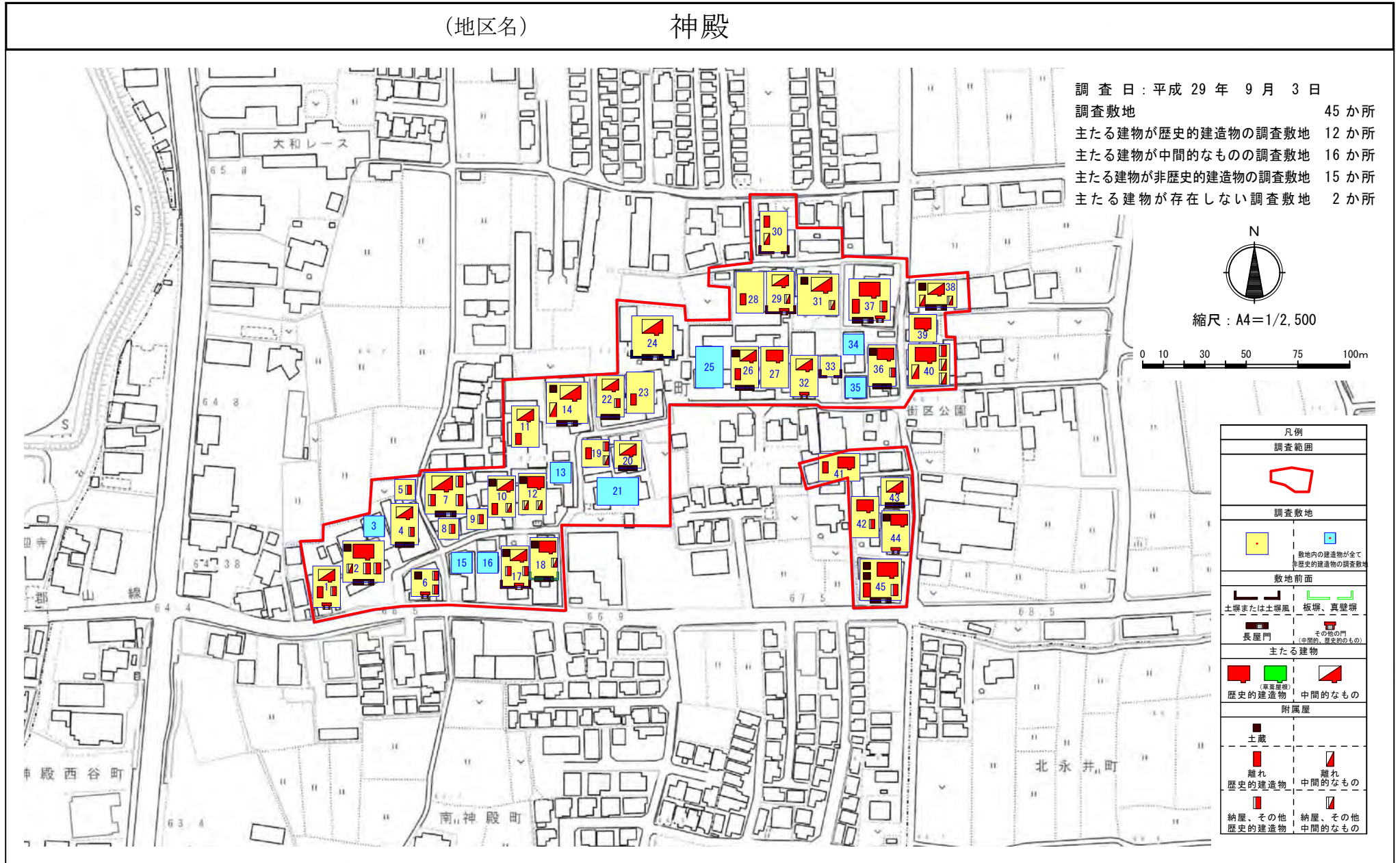
[その他の特徴・感想]

- ・ 周辺の住宅開発に伴い農地から駐車場に転用されたとと思われるところが多い。
- ・ 東側は若草山を含む山並みを目にすることができ、まだ広大な田園風景が広がっている。

分布図

(地区名)

神殿



神 殿 2－地域の風景 町並み



神 殿 3 - 建物写真①



長屋門・主屋 切妻造

長屋門は、出桁が二段でケヤキ板戸の重厚な造り。主屋は戦後の建物か。つし二階で落棟に煙出しが残る。主屋には七福神、長屋門には苗字の入った鬼瓦が見られる。



長屋門・主屋

敷地南面に長屋門を構える。出入口のガラス障子は近代的な意匠。主屋は片側入母屋の二階建てで、軒は出桁で受ける。戦後の建築とみられる。北側の張出玄関は後で設置。当初は南入口か。



主屋 切妻造(落棟)

築40～50年になるという戦後の建物。つし二階、落棟に煙出し。



塀・長屋門・主屋

塀と長屋門は壁意匠でそろえる。主屋は戦後とみられる入母屋造の二階建て。出桁のあるがっしりした造り。

備考

神 殿 3 - 建物写真②



主屋 切妻造(落棟)
 つし二階の農家型住宅。落棟に煙出しが残る。戦後の建築か。南に張出玄関があるが元は北が入口という。



蔵前座敷と蔵
 入母屋妻入の蔵前座敷と乾蔵。右側にみえるのは戦後とみられるつし二階の主屋。



長屋門
 近年の建築だが、出入口の両脇に蔵や納屋、離れ等を接続する伝統的な長屋門の形態をよく踏襲している。



蔵・門・主屋
 門に続く主屋は新しく見えるが戦後の築造か。壁、屋根の改修時に煙出しを撤去したと思われる。



主屋 切妻造(落棟)
 戦後の建築とみられる。落棟に煙出しが残る。大戸口脇には玄関を張り出さずに設けている。



長屋門
 門と納屋部の棟高の違いが変化を与える。棟端の鬼瓦上の鳥ぶすま瓦が印象的で、デザインを引き締める。

備考

神 殿 3 - 建物写真③

	
<p>長屋門 板張り、格子戸などが美しい。新しく見えるが軸組は古く、近年改修されたものであろう。駒つなぎあり。</p>	<p>離れ 主屋正面をふさぐように建つ珍しい例。一階のガラス窓は、大正・昭和前期頃によくみられる意匠のもの。</p>
	
<p>蔵 乾蔵。隣の納屋も含めて戦前のものと思われる。</p>	<p>塀・門・蔵 背が高く存在感のある近年の乾蔵。門、塀も近年のものであるが、和風な造りで蔵をひきたてている。</p>
	
<p>納屋 ドテ屋。周囲の市街地化が進んでいる中で異色だが、なかなかの存在感である。</p>	<p>納屋 こじんまりとした農家の納屋。戦後の建物。</p>
<p>備考</p>	

出屋敷 1－地区の特徴・考察

調査日 平成29年 9月30日



地区中央 上街道東側の町家



地区南 上街道東側の店舗（町家・呉服店）

[景観・敷地]

- ・ 出屋敷は明治地域北東部に位置する。最東端は国道169号に接し、西寄りにはJR桜井線が通る。集落は上街道沿いに形成され、北永井の出屋敷として成立したとされる。『明治郷土史』（昭和50年）に、清水池、新池、畑森池や用水溝の記載がある。通称町名として「清水永井町」も使われた。
- ・ 集落の北は市街化区域で、JR線西側には昭和40年代後半に神殿から出屋敷にかけて造成された住宅団地がある。上街道沿いの宅地化も進んでおり、旧市街から集落まで家並みが連続するのも時間の問題であろう。集落の東・南・西は、国道169号沿いが市街化区域となっていて近年郊外型店舗が進出しているが、それ以外は市街化調整区域で、現在も水田が広がり農村集落の姿をよく留める。

[主屋]

- ・ 調査棟数24棟中、歴史的建造物11棟（うち住宅以外1棟）、中間的なもの4棟を確認できた。上街道東側は14棟で、歴史的建造物が8棟あり、そのうち5棟が通りに面する町家形式、1棟が農家、1棟が貸家、1棟が集会所であった。中間的なものは2棟あった。上街道西側は10棟で、歴史的建造物は3棟あり、町家形式、農家、貸家がそれぞれ1棟ずつあった。中間的なものは2棟あった。
- ・ 町家形式の主屋のほとんどは、下手を落棟としたつし二階で、戸口に大戸と戸袋、下手に太格子、居室部に細格子を構え、つしのガラス窓に鉄格子を入れていた。表屋造のものも1棟あった。

[附属屋]

- ・ 門は7棟あり、長屋門が2棟、その他の門が5棟あった。その他の門のうち1棟が非歴史的建造物であった以外はすべて中間的なものであった。
- ・ 蔵のある敷地は6か所あったが、1か所に3棟ある敷地もあり、全体で8棟あった。歴史的なものは7棟で、そのうち2棟は大規模な蔵であった、その他に中間的なものが1棟あった。
- ・ 離れは15棟あり、歴史的なものが3棟、中間的なものが10棟あった。歴史的なものうち1棟は表門と主屋の間に配置されており、接客用に設けたものとみられた。
- ・ 納屋は15棟あり、歴史的なものが8棟、中間的なものが4棟あった。
- ・ その他の附属屋は7棟あり、歴史的なものが2棟（消防ポンプ庫・便所）、非歴史的なものが5棟（車庫等）あった。

[その他の特徴・感想]

- ・ 街道から路地に入った敷地背面側、水田地帯との境界部に、土壁の上に木造瓦葺の屋根をかけたドテ屋と呼ばれる小屋が1棟あった。屋根は崩壊していたが、土壁はよく残っていた。

分布図

(地区名)

出屋敷

調査日：平成29年9月30日

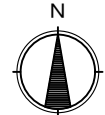
調査敷地 25か所

主たる建物が歴史的建造物の調査敷地 11か所

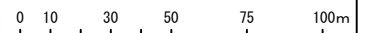
主たる建物が中間的なものの調査敷地 4か所

主たる建物が非歴史的建造物の調査敷地 9か所

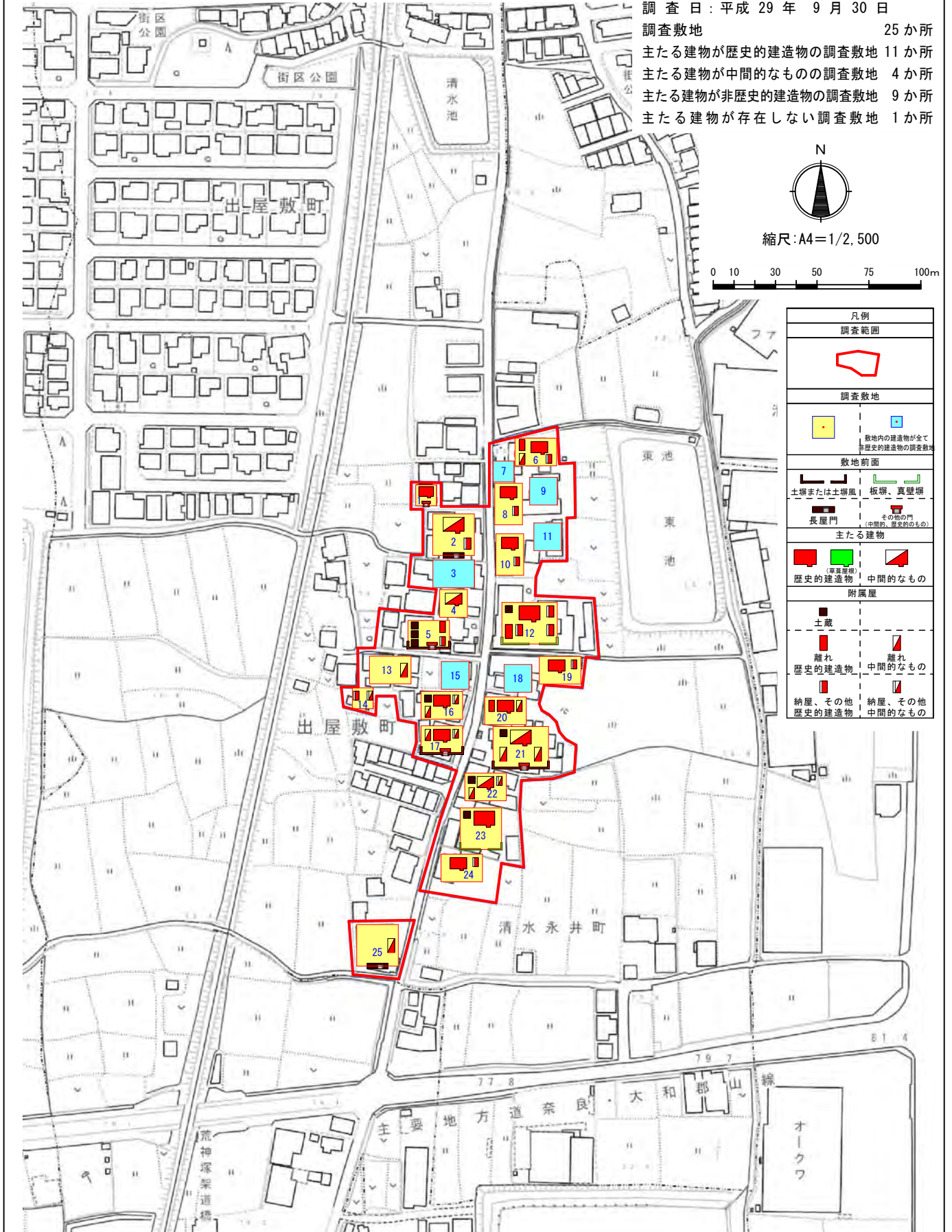
主たる建物が存在しない調査敷地 1か所



縮尺：A4=1/2,500



凡例	
調査範囲	
調査敷地	
	敷地内の建物が全て歴史的建造物の調査敷地
	敷地内の建物が全て非歴史的建造物の調査敷地
敷地前面	
	土塀または土塀風
	板塀、真壁塀
	長屋門
	その他の門 (中堅的、歴史的なもの)
主たる建物	
	(真壁屋形) 歴史的建造物
	中間的なもの
	非歴史的建造物
附属屋	
	土蔵
	離れ 歴史的建造物
	離れ 中間的なもの
	離れ 非歴史的建造物
	納屋、その他 歴史的建造物
	納屋、その他 中間的なもの
	納屋、その他 非歴史的建造物



出屋敷 2－地域の風景 町並み



出屋敷 3-建物写真①



主屋 入母屋造（落棟）
 昭和初期頃とみられる町家。太格子、出格子あり。前面の柵は近年取替。つしの窓に鉄格子。正面庇は板軒。



主屋 入母屋造（落棟）煙出し 装飾瓦
 軒瓦に家の紋をあしらい、七福神の鬼瓦で飾る。落棟に煙出しが残る。上手にも小さく落棟をつくる。



納屋2棟と蔵
 3棟が1列に接続。中央の納屋は本瓦葺で小丸窓が特徴的。足元は低い石積みで敷地の高低差を処理。



主屋背面 蔵、納屋、離れ
 左側に大きな蔵。中央奥の主屋背面に入母屋妻入の張出部あり。右側の離れも入母屋造の大きな建物。



主屋 切妻造（落棟）
 集落北部、街道東側。正面は黒漆喰塗、側面は白漆喰塗。屋根にむくり。太格子・平格子あり。



主屋 切妻 落棟
 集落北部、街道東側。太格子・平格子あり。つしに縦格子窓（無双窓か）。

備考

聞き取りによると、猿沢池から桜井に続く街道は上街道や上ツ道と呼ばれ、木炭バスが走っていた。人通りも多く、通り沿いには12軒ほどの店舗が建ち並んでいたという。そのため、通り沿いの家では各家でお稲荷さんを祀っていたといい、調査でも実例を確認することができた。

出 屋 敷 3 - 建物写真②



主屋 表屋造

元呉服店。表屋は入母屋造、つし二階の整った意匠で、出格子欄間が装飾的。主体部は本二階、落棟。



貸家 切妻造

2乃至3戸の長屋。中央の戸口は潜戸付大戸を構え整った意匠。格子窓あり。



主屋 切妻造（落棟）

街道東側。太格子、平格子、つしに鉄格子。主屋裏に井戸、祠（稲荷社か）あり。



主屋 片側切妻片側入母屋造

集落北端、東側。街道から下がつて建つ。つしにガラス窓。瓦は古くないが、大棟の北に龍、南に虎の鬼瓦。



主屋 切妻造（落棟）

集落中央部、街道西側。大戸、太格子、平格子、つしに鉄格子。正面延石基礎。昭和5年建築との報告あり。



主屋 切妻造（落棟）

昭和45年建替の兼用住宅（仕出し店）。出桁があり落棟とするが本二階建てで建ちが高い。祠（青木大神）あり。

備考

聞き取りによると、かつて町内で次のような商売が行われていたという。竹屋、祈禱所、高野豆腐、素麺、青物、カフェ、大衆酒場、米屋、豆腐屋、茶碗屋、たばこ屋、薪炭、魚屋、質屋、呉服屋。また、蚊帳工場もあったという。

出 屋 敷 3 - 建物写真③

	
<p>長屋門 集落北部、街道西側の中間的な長屋門。</p>	<p>長屋門 集落南部、街道西側の中間的な長屋門。</p>
	
<p>蔵（本瓦葺）敷地内に3棟の蔵が建つ 腰はなまこ壁で、二階窓に鉄格子。奥の蔵は土戸を構える。左の蔵の背面や奥の蔵の軒丸瓦は家紋入り。</p>	<p>蔵 主屋の敷地の路地向かいにある大きな平入蔵。置屋根も塗込める。元米蔵という。下屋正面に建具や太格子。</p>
	
<p>蔵 敷地内で一番古い建物。木材は旧南都銀行本店（現本店はT15の建築）の古材を利用したとのこと（居住者談）。</p>	<p>ドテ屋 切妻 上街道から路地を入った集落西側の農地との境界部に位置するドテ屋。屋根が崩落。土壁は形を留めている。</p>
<p>備考</p>	

報告会の概要

平成29年度・奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業

明治地域歴史的建造物調査 報告会

北永井・北之庄・南永井・神殿・出屋敷

文化庁の補助事業として採択を受け、奈良県建築士会と奈良市教育委員会が協働し、主に民家を対象に歴史的建造物の調査を行っています。
 平成29年度は明治地区で調査を行いました。その成果を報告し、地域の魅力を再発見することで、まちづくり、まちおこしに繋がりたいと思います。



日時 2018年2月24日(土曜日) 開場 PM1:00 開会 PM1:15~PM4:15
 会場 南部公民館 明治分館 ◇ 〒630-8442 奈良市北永井町508-2 ◇
 TEL: 0742-62-6728
 【★パネル展と会場が異なりますのでご注意ください】

- ①挨拶 PM1:15~1:30
- ②調査概要の説明 PM1:30~1:45
- ③調査を行ったヘリテージ
 マネージャーによる調査報告 PM1:45~3:00
- ④奈良女子大学名誉教授 上野邦一氏との
 パネルディスカッション PM3:10~4:15



○JR桜井線「帯解駅」下車、徒歩24分
 ○JR奈良駅近鉄奈良駅經由
 白土町行きバスにて「神殿」バス停
 下車、徒歩11分
 ○駐車可能台数6台
 ※公共交通機関をご利用ください。

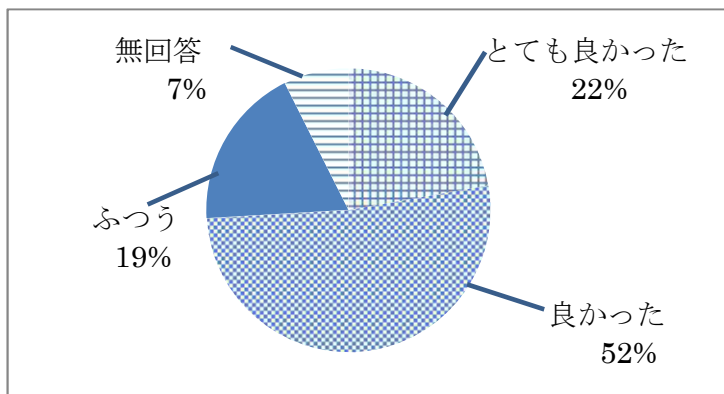
【問合せ先】 奈良県建築士会 事務局
 〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館 TEL 0742-30-3111

主催 (一社)奈良県建築士会・奈良市伝統文化いきいき実行委員会
 共催 奈良市教育委員会
 助成 平成29年度 文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産総合活用推進事業)



アンケート (来場者38人、回答数27人、回答率71%)

明治地域の調査報告について



※とても良かった・良かった・ふつう・あまり良くなかった・良くなかった の5段階で評価

報告会は地域以外からの参加者も多く、調査への関心の広がりを感じた。アンケートでは、「地域を知る上で大変興味深い調査だ。」「今の姿を残すことで、住民の意識(景観保存)が高まる。」「想像以上に歴史的建造物が多いのに驚いた。」等、地域を再発見に関する意見が多かった。
 また、「地域の小中学生にも紹介し、関心を持ってもらいたい。」「地域住民が今後のまちづくりを考えるための資料にする。」等、調査結果の活用に対する意見もあった。

平成29年度文化遺産総合活用推進事業
奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業（明治地域）

調査員

(建築士会) 米村博昭 米田 巧
徳本雅代 高安和秀
水下 力 太田幸雄
大崎 修 森本弓子
何左昌範 渡邊有佳子
安田千鶴子 関川卓司
加藤安伸 間嶋伸介
(奈良市教育委員会) 山口 勇
中村咲子

報告書担当者

(建築士会) 米田 巧
高安秀和
何左昌範
森本弓子
間嶋伸介
大崎 修
徳本雅代
(奈良市教育委員会) 山口 勇
中村咲子

*本書に掲載の地図は平成20年5月奈良市都市計画課が作成したものに
加筆して作成した。

平成29年度 奈良市内における近世近代の
歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業
明治地域歴史的建造物調査報告書
平成30年3月(2018年)
発行 一般社団法人 奈良県建築士会
(住まいまちづくり委員会 奈良ヘリテージ支援センター)
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
TEL0742-30-3111
編集協力 奈良市教育委員会 文化財課

本書は、個人情報・プライバシー保護のため、奈良市教育委員会が報告書原本の一部を修正したものです。